

西光

第 4 号

百橋山 西光寺
高岡市京町一〇一二五
電話 二二二二九七一
平成二年九月十日

井波の瑞泉寺と世界の情勢

長い間東西を隔てていたベルリンの壁が壊され、ドイツは分断から統一へと向かい、東ヨーロッパの国々にも民主化の波が及び、アメリカとソ連の二大大国を中心とする戦後の東西緊張の歴史にもようやく幕を閉じ、これでやっと平和な世界が訪れるものと思われた。戦争は人々の間に長くしかも深刻な禍根を残したものであった。親兄弟が国境を隔て、また同じ民族がにらみ合うような悲劇が、戦後五十年近くたつてようやく解消するかに思われた。ところが今度は中東湾岸のイラクが世界中を相手に戦争を仕掛け、この地球上に一時の平和も保たれない、相争う人間の醜い姿を露呈させている。正に修羅や餓鬼畜生の世界である。翻って周りを見渡すと、我が真宗のお念仏の世界にも、生々しい人間の我執と煩惱に凝り固まった醜い争いが見出される。井波別院瑞泉寺をめぐる葛藤はまことに悲しむべきことである。後ろに五箇山を擁し、越中砺波平野を望む高台に建てられた井波の瑞泉寺は専修念仏の信仰の篤い井波の町衆の誇りであり、また長い歴史をもつ信仰の証である。長い苦難の中この寺を建て、守り、支え、栄えさせてきたのは、他でもない井波の町衆であった。そして砺波や高岡などの越中門徒であった。瑞泉寺は越中門徒のものである。決して大谷派でもなければ、本願寺でもなければ、まして耳新しい真宗本願でもなかった。そしてまた大谷暢道氏でもない。にもかかわらず阿弥陀如来と親鸞聖人と共にあるお念仏のひたすら静寂な信仰と生活を育んできた井波の町衆の長い歴史に対し、支配とメンツといった世俗の欲望をぎらつかせた一部の教団関係者が、にわかに井波瑞泉寺を我が物にせんとして京都から乗り込んだのである。しかも僧侶という聖職にある人たちである。正にヤクザの所行である。イラクのクウェート侵攻と同類である。さらに悪いのはこちらは仏様を人質にしていることである。仏様をもないがしろにした傲慢な所行は許されるはずもない。本願ほこりもい加減にしてもらいたい。

「専修念仏のともがらの、わが弟子ひとりの弟子、という相論のそうらうらんこと、もつてのほかの子細なり。親鸞は弟子一人ももたずそうらう。（中略）ひとえに弥陀の御もおしにあずかって、念仏もうしそうらうひとを、わが弟子ともうすこと、きわめたる荒涼のことなり。（中略）如来よりたまわたりたる信心を、わがものがおに、とりかえさんともうすにや。かえすがえすもあるべからざることなり。」（歎異抄）親鸞聖人のお言葉にもあるように、わがもの、ひとのものなどと、わがはからいにこだわっている間は、本当の信心には程遠いと思われる。今日の大谷派の混迷を親鸞聖人はいったいどのようにご覧になるか。まことに嘆かわしいことである。

▲標語▼

「如来の誓願を信ずる心のさだまる時と申すは、攝取不捨の利益にあずかるゆえに、不退の位にさだまると御ころえ候べし。（中略）このゆえに、まことの信心の人をば、諸仏にひとしと申すなり。」（御消息集）

△仏前結婚式△

去る三月二十四日（土）本堂に於て仏前結婚式が執り行われた。新郎は神戸大学の卒業生で、今は奈良の大和文華館に勤務して、美術史の研究の励む新進の中部義隆君、そして新婦は学校で教鞭を執る唯起子さん。二人とも大阪の生まれながら、なぜか高岡まで来て、西光寺にて仏前結婚式を挙げるに至った。めでたき因縁かなと、慶んで結婚式の主婚を勤めた次第である。なお披露宴も座敷にて恩師や上司、また親しき友人がわざわざ神戸大阪奈良から駆けつけて執り行われた。今後このような仏前結婚式は益々盛んになればと念願する。

△華展―報恩講に花添える―△

昨年の報恩講では、華展や茶の湯でこれまでにない変わった趣向をこらして、参詣の門徒衆を楽しませた。今年もいろいろ皆様がたのアイデアに溢れた催しや出し物を期待している。華展は近所の草月流の師範である新保嶺庸先生の門下生一同の作品が陳列された。報恩講の前日は遅くまでかかって、仏前内陣の花を生け、さらに各自の作品を仕上げるなど、その奉仕的な努力には頭の下がることでした。

△真宗ひとこと知識△

「念仏」仏を念ずること。憶念念仏（くりかえし仏を思い浮かべること）、観念念仏（仏像などを見て仏の姿を感得すること）、称名念仏（仏名をとる念すること）の三種に大別されるが、ふつうは称名念仏のことをいう。真宗でいう念仏は、つぎの三つの意味が一体となったものである。①南無阿弥陀仏という名号そのもの。②阿弥陀仏にたいする信心。③口にとなえる念仏。南無阿弥陀仏という名号①が、人の心に受け止められて信心②となり、その信心が口にあらわれて念仏③となる。

△院号法名について△

存命中、または亡くなられた際に特に院号法名のお申し出が時々ありますが、以下のようにお取り計らい致します。

真宗本願（京都）からの院号法名の下付を申請される場合は、八万円と手数料二万円、合わせて十万円。また東京本願寺からの院号法名の下付を申請される場合は、五万円と手数料三万円、合わせて八万円。また西光寺からの院号法名を申請される場合は下付手数料共で五万円。なお念のために申し添えますが、親鸞聖人には院号はありません。法名は「釈親鸞」です。

△行事予定△

十月八日	報恩講（講師 教願寺 釜田恒明師）
九月	〃（講師 願浄寺 嶋 秀誠師）
十一月八日	（終お講）法話会（講師 光専寺 葉室文昭師）
十一月二十七日	御正忌（講師 願浄寺 嶋 秀誠師）
一月一日・二日・三日	修正会・金剛参り
一月八日	（初お講）法話会（講師 教願寺 釜田恒明師）
三月八日	法話会（講師 教願寺 釜田恒明師）
毎月八日	法話会（講師 教願寺 釜田恒明師）
八月七日・八日	永代祠堂経会（講師 光専寺 葉室文昭師）
八月一四日・一五日	お盆

